

2022 年度 年次報告書

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)



瀬戸内オリーブ基金
SETOUCHI OLIVE FOUNDATION

特定非営利活動法人 瀬戸内オリーブ基金

理事長挨拶

平素は当基金の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本報告書は、当基金が2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）に行った活動と
りまとめ、みなさまからお預かりした寄付金をどのような活動に使わせていただいたかを報告するもので
す。

当基金は、瀬戸内の自然、つまり「ゆたかな島と海」を次の世代に引き継ぐことを目的として、瀬戸内
海エリアで行われる環境保全活動に資金を助成するとともに、自らも環境課題に取り組んでいます。

2022年度は、長かったコロナ禍の終息がようやく見える状況を迎え、スポ GOMI や海ゴミ勉強会
（オリーブフォーラム）を概ね予定どおり開催することができました。事務局体制も拡充され、次年度に
向けて活動の質を高めるとともに、活動の範囲を広げていきたいと考えています。

引き続き当基金への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2023年6月吉日

特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金

理事長 岩城裕

瀬戸内オリーブ基金とは

瀬戸内オリーブ基金は、当時日本最大規模といわれた有害産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに、建築家の安藤忠雄氏と、豊島事件弁護団長の中坊公平氏が呼びかけ人となって設立された NPO 法人です。2000年、公害調停成立を機に設立されて以来、瀬戸内海エリアの美しい自然環境を守り、再生することを目的に活動をしています。瀬戸内海エリアの環境保全活動に対して資金の助成を行うほか、自らの取組みとして「ゆたかなふるさと100年プロジェクト」、「ゆたかな海プロジェクト」、オリーブ栽培などを行っています。



Our Mission

ミッション

次の世代へ美しいふるさとを引き継ぐ

- 1 瀬戸内海エリアの環境保全と再生に取り組む
- 2 環境をまもる意識を育み、自然とともに生きてきた人類の原点を見直す
- 3 豊島事件の意義と教訓を伝える



Our Vision

ビジョン

人と自然が共存する持続可能な社会を目指す

大量生産・大量消費・大量廃棄社会を循環型社会に転換する

2022年度は瀬戸内海同時多発ごみ拾い「スポ GOMI」の開催や、豊島事件の継承に力を入れて取り組みました。また、コロナの影響が緩和する中、各社法人サポーター様との取り組みも復活しつつあります。

第1部 助成事業

瀬戸内海エリアで環境保全活動を行っている団体・個人に対し、活動資金を助成しています。植樹活動や環境教育などに助成する「植樹・環境教育助成」に加え、これから始めるユニークな環境保護活動などに対し、原則3年間支援する「スタートアップ助成」があります。

オリーブ基金では、適正な助成を実現するため、外部の有識者で構成する助成審査委員会を設置し、その検討結果をふまえて、オリーブ基金運営委員会が助成決定をしています。

1. 採択した団体とプロジェクト及び助成額

2022年度は植樹・環境教育分野への助成として8件を採択し、助成決定額は3,864千円となりました。助成内容は、海ごみ関連の助成申請が増えています。

また、以下のほかにオリーブ基金の直轄事業である「豊島・ゆたかなふるさと100年プロジェクト」に参加いただいている岡山大学の研究活動や、その一環で豊島小学校・豊島中学校で育てていただいたツツジを豊島の荒廃地に植栽する活動、などにも助成を行いました。

府県名	団体名／プロジェクト名	主な活動の内容	助成額
大阪	特定非営利活動法人 MSISK／地域における環境美化活動の企画・運営及び支援に関する事業	大阪・天王寺地区における美化活動 西宮・甲子園地区における美化活動	¥260,000
大阪	いこま 棚田くらぶ／生駒市西畑地区の棚田・里山の再生と創造	1.棚田の自然環境を体験する活動 2.里山の景観整備、緑化推進	¥400,000
兵庫	フォレスター松寿／「松寿の森」づくり	六甲山系グリーンベルト整備事業に賛同し「森の世話人」として植樹活動を展開。	¥400,000
大阪	堺市環境局カーボンニュートラル推進部 環境政策課／漁業体験講座	漁船に乗り漁業体験を行う。水質調査の見学。魚の観察。	¥295,000
京都	川と海つながり共創プロジェクト／保津川のプラごみをなくして、	流域全体での清掃活動の拡大を図ることで琵琶湖淀川水系の一つである保津川（桂	¥1,000,000

	瀬戸内海のごみを減らそう！	川) から瀬戸内海的环境保全に貢献することを旨とする。	
奈良	一般社団法人大和森林管理協会／都市近郊里山林「陽楽の森」で里山の循環利用を復活させよう！プロジェクト	都市近郊里山林「陽楽の森」で広葉樹の苗木を育て、伐採跡地に植樹し、薪として再び利用することで里山の循環利用の復活を図る。	¥360,000
香川	豊島 棚田くらぶ／唐櫃岡の棚田再生・保全プロジェクト	豊島の棚田の耕作放棄地の再生。小麦・そば・大豆・蓮根の栽培。	¥735,600
大阪	中之島緑化事業	「こども本の森 中之島」緑化修景のため、オオイタビ・ツツジの植栽を実施。	¥413,600

2. 助成事例紹介

団体名	フォレスター松寿
プロジェクト名	「松寿の森」づくり
活動地	兵庫県
助成採択年度	2022 年度
プロジェクトの概要	六甲山麓の市街地は災害の歴史を繰り返している。森の保水と地盤補強による防災を目的とする六甲砂防事務所の六甲山系グリーンベルト整備事業に賛同して「森の世話人」として参加、防災や環境改善に加えて市民の憩いの森づくりを目指している。 2009年12月活動以来約3ヘクタールの活動地において1200本を超える植樹、育樹を続けている。

2022 年度活動報告 「松寿の森」づくりでひとと地域をつなぐ

六甲山での「松寿の森」づくりのため、雑草木の間伐作業、植樹・育樹、登山道および遊歩道の整備活動を行っている「フォレスター松寿」は、2009年10月に企業OB会有志が中心となって設立されました。阪神淡路大震災による六甲山の荒廃を改善し、自然との共生を実現するための環境保全活動に注力してい

る六甲山系グリーンベルト整備事業の「森の世話人」として活動しています。神戸市森林整備事務所と連携して登山道の整備作業や清掃活動を手がけ、ハイカーたちが安全に登山を楽しめる環境を支えています。また、14年間で約1,250本の植樹を実施してきた経験をもとに、毎年3月の植樹会では植樹体験をはじめ、活動地を案内して自然観察会を開き、参加者らが自然に親しめるような提案も行っています。

2022年度では例会18回、延べ470名の皆様に参加いただきました。40人の会員を中心とする活動の場へは、地元住民はもちろん近隣の高校・大学からも自然に興味をもつ若者が多数訪れます。自然に囲まれた環境下で活動する彼らが「目を輝かせている様子は頼もしいばかり」です。

2023年度は当会にとって15周年を向かえ、貴基金の助成を頂き事業を展開して参ります。植樹活動は、10年単位。「森」になるまでは最低でも30年かかると言われています。植樹活動から育樹活動へと展開し、ヤマアジサイなど花卉類を増やして市民の憩いの場となる森づくりの実現を目標にしたいと考えています。そのためには、広報活動を通じて次世代への引き継ぎと参加者の若返りのための働きかけも重要になっています。

「日常の積み重ねがないと維持できない難しさと、だからこそ得られる達成感や充実感といった楽しみをもっと広く知ってもらいたい」というのが願いです。防災に強く市民の心の拠り所となるような「松寿の森」づくりを目指しています。



第2部 直轄事業

1 2022年度ゆたかな海プロジェクト（瀬戸内海の海洋プラスチックを減らす活動）

オーリーブ基金では、2009年度から高松市の4つの漁協（高松市瀬戸内漁協・香西漁協・女木島漁協・男木島漁協）のご協力を得て、海底に大量に沈んでいる海ごみの問題に取り組んできました。近年、海洋プラスチックごみの問題がますます深刻化しています。世界中で海に流れ込むプラスチックは年間800万トンとの試

算があり、2050年にはプラスチックごみの重量が魚の重量を超えるとも言われています。プラスチックごみは細かく砕かれてマイクロプラスチックとなり、生物や環境を汚染します。

海洋プラごみ問題は、豊島の産業廃棄物と同じく大量廃棄の問題であり、私たちの便利で快適な生活が持続可能なかが問われています。「豊かな島と海を次の世代に」つないでいくために、オリーブ基金は「ゆたかな海プロジェクト」を直轄事業として立ち上げ、展開しています。

「ゆたかな海プロジェクト」は、市民のみなさまとともに海洋プラごみの発生を抑制し、発生した海洋プラごみを回収する活動です。海洋プラごみの発生を抑制するためには、ペットボトル飲料などプラスチック製品をなるべく使わないようにすること、街中のプラごみが海に流れ込むことを防ぐこと（街中のごみを拾うこと）などが必要です。海ごみが発生する仕組みについても正しい理解が求められています。発生してしまった海洋プラごみは、マイクロプラスチックになる前に回収しなければなりません。この活動は日本財団の助成を受けて活動をしています。

1-1 海ごみ勉強会「オリーブフォーラム 2023 IN 高松」の開催

瀬戸内海エリアにおいて海洋プラごみの発生抑制・回収に向けた市民の意識醸成を進めるため、海ごみ勉強会「オリーブフォーラム 2023in 高松」を開催しました。

開催日：2023年3月11日（土）

参加費：無料

場 所：高松市生涯学習センター（香川県高松市片原町1-1-1）

主催：NPO 法人瀬戸内オリーブ基金

後援：高松市教育委員会

参加人数：30人

内 容：

■第1部 オリーブ基金の活動紹介

13:30～13:50 オリーブ基金の活動報告

■第2部 トークショー

13:50～14:50

[テーマ] 海ごみの今と私たちにできること

[対談] 原田禎夫先生（大阪商業大学）・古賀陽子氏（ブログ「プラなし生活」運営）・正阿彌崇子氏（NPO 法人エコネット近畿）

■第3部 ワークショップ

15:00-15:45

[ワーク] かばんの中のプラスチックを大調査

[担当] エコ〜ると京大・西本早希氏

オンラインと臨場の両方でトークショーを開催しました。海ごみ問題専門家の大阪商業大学原田先生と、ブログ「プラなし生活」の古賀さんによる対談は、日常生活から取り入れられるプラスチックを減らす方法や、プラスチックの代替品などの紹介があり、「明日から取り入れやすい」や「やってみたい」という意見を多くいただきました。

ワークショップでは、京都大学の学生サークル「エコ〜ると京大」の西本さんによる、かばんの中のプラスチックを見つけるワークショップを行いました。参加者の多くが、かばんの中のプラスチックに着目するのが初めての中、各自が隣の座席に中身を広げ、一つ一つ点検していきました。「これはプラスチック？」という判断に困るアイテムについては、ワークショップ担当のエコ〜ると京大さんや、原田先生、古賀さんに直接聞くことができ、実際に手を動かしながら学びと対話を深める機会となりました。



1-2 スポ GOMI 開催報告

スポ GOMI とは、一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブが「スポーツ」と「社会奉仕活動」の融合による「スポーツで、街をキレイにする！」活動です。このスポ GOMI は、企業や団体が取り組む従来型のごみ拾いに「スポーツ」の要素を加え、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換させた日本発祥の全く新しい取り組みです。

オリーブ基金では2020年度から継続して、海ごみリーダー育成講習会を開催しています。2022年度も7月31日（日）にリーダー育成講習会をオンラインで開催し、8団体24人にご参加いただきました。一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ馬見塚代表から、スポGOMIの手法や幅広い市民の巻き込み方などの講習を受けていただきました。2021年度に引き続き、香川県高松市の海守さぬき会の協力をいただき、6カ所においてスポGOMIを開催し、参加者441人に海ごみに対して関心を持ってもらう機会を提供しました。

■各地におけるスポごみの開催状況

開催日	大会名	開催場所	開催団体	動員数 (人)	ごみの 総重量 (kg)
7月3日（日）	スポGOMI in 男木島	高松市男木町 大井 海水浴場	パソナスポGOMI実行 委員会	133	95.7
9月1日（木）	スポGOMI in 男木小中 学校	高松市男木町 大井 海水浴場	高松市立男木小中学校	31	37.3
9月25日 （日）	スポGOMI in 男木島	高松市荻町 男木島 灯台周辺海岸	日本ボーイスカウト実 行委員会	53	25.4
10月30日 （日）	スポGOMI in 唐小浜	愛媛県今治市 唐子浜	ビーチクリーンしまな み	77	144
11月13日 （日）	スポGOMI in 豊島	香川県土庄町豊島	瀬戸内オリーブ基金	27	34.2
11月27日 （日）	スポGOMI in 高松第一学 園	高松市松島地区（高 松第一学園校区内）	高松市松島地区コミュ ニティ協議会	120	61

1-3 スポGOMI 事例紹介

■【スポーツごみ拾い in 豊島家浦】

日 時：11月13日（日）8:45~10:30（競技時間30分）

場 所：香川県小豆郡土庄町豊島家浦（豊島交流センター周辺）

参加者：6チーム 27人 *スタッフ13人

拾ったごみの量：34.2kg

（内訳）燃えるごみ：7.1kg 燃えないごみ：13.1kg ペットボトル：2.2kg ビン・缶：11.5kg たばこ吸い殻：0.3kg

実施状況：あいにくの雨模様の中、競技時間を予定の 60 分から 30 分に短縮して実施しました。昨年に続き 2 回目の参加者となる方々は、ごみの多く落ちている場所の知識や経験などを生かして、ポイントの獲得が上手くなっているチームもありました



■ 【スポーツごみ拾い in 唐子浜】

日 時：7月3日（日）13:20-17:40（競技時間 30 分）

場 所：高松市男木町 大井海水浴場

参加者：23 チーム 133 人

拾ったごみの量：95.718kg

（内訳）燃えるごみ：7.975kg 燃えないごみ：58.8kg ペットボトル・ビン・缶：28.940kg たばこ吸い殻：0.3kg

実施状況：7月3日に開催された「サンポート高松トライアスロン大会」のサポート団体である株式会社パソナ環境委員の有志で実行委員会を立ち上げ、香川県在住の高校生・中学生を中心とした NPO 法人香川活性化生徒の会「香活(かっかつ)」のメンバーによる海ゴミ授業も行い、ビーチコーミング×スポ GOMI×環境学習のコラボとして大々的に開催しました。

男木島・大井海水浴場で開催された「スポーツ GOMI 拾い」の終了後、男木小中学校体育館に於いて開催した海ゴミ授業も実り有る環境学習会となりました。参加したのはサンポート近隣の小学生親子および中高生。当日は総勢 133 名（23 チーム）の参加で、炎天下海岸での競技のため熱中症が心配されたため 30 分という短時間での競技となりましたが、集められたゴミの総重量は 95,718 g という多くの量に一同大変驚きました。



2. 豊島・ゆたかなふるさと 100年プロジェクト（国立公園原状回復事業）

豊島の産業廃棄物不法投棄によって失われた自然を再生し、次世代に引き継ぐ事業です。現場は瀬戸内海国立公園の中にありましたが、緑豊かな白砂青松の地であった海辺は長期間にわたり海浜や山の土砂が採取・掘削され、表土が失われています。それに加え、不法投棄によって植生がかく乱されており、国立公園とは名ばかりの状態になっています。オリーブ基金では、現在多くの住民や企業ボランティアの協力を得て、この場所を国立公園にふさわしい状態に回復する取組みを続けており、今後長い時間をかけて自然海岸、自然の植生に変えていくため、2021年度から「豊島・ゆたかなふるさと 100年プロジェクト」として、リスタートしました。

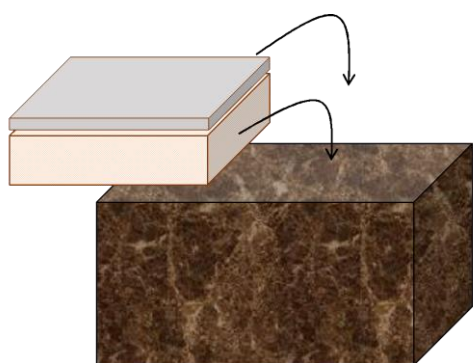
2-1 植生回復の状況

岡山大学大学院環境生命科学研究科教授 嶋一徹氏の助言と指導をいただきながら、不法投棄現場における植生の多様性の取り戻し、外来植物を除去する活動を始めて7年が経ちました。人の手による「自然を造成する」のではなく、自然がゆっくり回復できるようにすることを目的に、植生遷移の流れに沿って、多種多様な種子を含んだ表土を撒くことで、風や鳥によって運ばれた種子が自然に発芽し定着できる環境の整備を進めています。

嶋研究室の2023年度の卒業生・森脇唯帆さんが、豊島の荒廃地をテーマに卒業論文を執筆してくださいました。

【論文概要】

近年、自然修復に際して外来種の逸出や遺伝子攪乱の問題を背景に、地域性を考慮することが求められており、埋土種子を含んだ表層土壌を撒き出す緑化工が各地で行われている。豊島の荒廃地でも早期自然修復のため表土撒き出し法による自然修復の実証的試験を2018年から行っている。その結果、木本類の定着には残存する表土が重要であり、最低でも深さ15cm以上は客土を敷設する必要があることが明らかになった。しかし、多数発芽した実生の多くが夏期の無降雨期に枯死することから、生残率を高める方策の確立が求められている。そこで発芽実生の生残率を高めるため、敷設する客土および撒き出す表層土に対して資材混入の有効性を検討した。その結果、埋土種子の発芽数を確保するためには緑化資材を混合することが有効であり、さらに敷設する客土にも細粒化した木炭を容積5%程度混入すると夏期の高温乾燥期に当年生実生の生残率を高められることが判明した。



表土撒き出し試験の方法



敷設マサ土へ木炭を混合して試験区を設定

卒業論文では、豊島の荒廃地で今後どのような手法が植生回復に有効なのかという視点から試験を行いました。

本試験では、処理区を4つに分けて検証を行いました。下層（客土）に植生基盤材・木炭を敷設した2か所に、それぞれの上層（表土）に基材を敷設した場合としない場合の計4パターンの分析を行ったところ、表土には植生基盤材を混ぜたもの、客土には木炭を混ぜたものが、4パターンの中最も保水性が高く、苗木（若い木）の生存に作用したという結果でした。温暖少雨な豊島における早期自然修復には、土壌の保水性向上が不可欠であるという推察がされました。

今後この研究を参考にしながら、プロジェクトを続けていきたいと考えています。

2-2 企業ボランティアとの取り組み

新型コロナウイルス禍でも十分に感染対策を行なった上で、NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合様がボランティア活動に参加されました。主な活動として、オリーブの収穫や海岸清掃、豊島の荒廃地を整備後にオリーブの植樹などを行いました。

2月には、新型コロナウイルス禍で活動を見送っていた、株式会社ユニクロ・株式会社ジーユーの従業員ボランティアが再開しました。一日目は産業廃棄物不法投棄現場と資料館の見学、国立公園内の整備、二日目は整備した土地に豊島の小中学生とともにツツジの植栽を行いました。岡山大学嶋研究室、豊島小中学校とのツツジの育苗・植栽活動は六年目です。六年前に植えたツツジの中には、可憐な花を咲かせるものもあり、豊島の春の情景を織りなしています。大変地道な活動ですが、徐々に成果が出はじめています。

実施日程	法人サポーター	ボランティア内容	人数 (人)
5月19日-20日	NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合	植生回復地整備、オリーブ園作業	24
7月12日	タカラベルモント・ルベル	国立公園内海岸清掃	15
9月13日-14日	NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合	植生回復地整備	8
10月5日-6日	NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合	オリーブ収穫・選果作業	15
1月31日-2月1日	NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合	植生回復地整備	9
2月21日-22日	ユニクロ・ジーユーボランティア	ツツジ植樹場所整備、豊島小中学校とのツツジ植栽	21

3. 豊島事件を語り継ぐ活動

日本が大量消費型社会から循環型社会へと大きく転換していくきっかけとなった、豊島事件の意義と教訓を次の世代に継承し、このような事件を二度と起こさないようにするために、オリーブ基金は豊島事件を語り継ぐ活動に取り組んでいます。その拠点である「豊島のこころ資料館」の保全・整備、語り継ぎの継承のため 2020 年度から地球環境基金の助成を受けて、豊島事件のアーカイブ作成や資料の整理と更新などを行っています。

3-1 豊島事件のアーカイブ化

○イラストアーカイブページの作成

豊島事件を幅広い方に知ってもらうため、「イラストアーカイブページ」を新たに作成しました。豊島事件の経緯を時系列で説明する内容で、イラストを多く用いることで分かりやすく解説しています。より詳しく知りたい人向けには、アーカイブページへの誘導をするなど、幅広いニーズにこたえられるような変更となりました。

URL: https://www.olive-foundation.org/teshima_ilustpage/



3-2 豊島での産廃見学者受け入れ体制の拡充

不法投棄現場にある「豊島のこころ資料館」は、有害廃棄物を持ち込んだ事業者が現場事務所として使用していた建物を有効活用し、豊島住民が自らの手で作った資料館です。資料館の中には産廃（シュレッダーダスト）の剥ぎ取り壁面が展示されているほか、数十年にわたる豊島事件に関する資料が展示されています。

2022 年度は地球環境基金の助成を受け、傷んでいた屋根の補修にくわえ、展示パネル 4 枚を新しく作成し資料の更新に取り組みました。また、資料館の建物補修に際しては NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合様からのご寄付により工事を進めることができました。



BEFORE



AFTER



新たな展示

3-3 循環型社会の必要性の普及

○修学旅行生受け入れ

2022年4月20日に、城北埼玉高校から3年生26名の修学旅行生を受け入れました。

皆さん豊島事件に関する事前授業を受けてきていたこともあり、資料館では語り部の方のお話を熱心に聞き、質問していました。資料館だけでなく移動中のバスの車内でも質問が絶えず、有意義な学習体験となりました。



○YouTube 動画の作成（2022年度）

【すぐにわかる豊島事件】

幅広い世代に豊島事件について知ってもらうため、動画「すぐにわかる豊島事件」を作成しました。瀬戸内海にゆかりのあるオリーブちゃんとスナメリ君（小型のクジラ）の2人が会話する中で、豊島事件について時系列で学ぶことができる動画です。島外からも気軽に見ていただけるように、YouTube にアップしています。



今後企業や教育機関などと連携し、学習教材として活用していく方針です。

メディア掲載情報

2023年4月21日 読売新聞夕刊6面 「第二の豊島作らせない」

2023年5月1日、8日 MBS ラジオ『となりの弁さん』

【水ヶ浦変遷動画】

産業廃棄物不法投棄現場の水ヶ浦の変遷を描く動画を作成しました。水ヶ浦は瀬戸内海国立公園内の景勝地として認定されましたが、1960年代からガラスの原料となるケイ砂の採取が始まり、表面の土が取り除かれました。そのあと、有害な産業廃棄物が持ち込まれ、1990年の兵庫県警による摘発まで事態が続き

ました。豊かな自然を取り戻すのには長い年月がかかるという
ことを知るための学習資料として、YouTube にアップして
います。



4. 豊島のオリーブ

瀬戸内オリーブ基金は、豊島の住民とともに約1ヘクタール・600本のオリーブ木を育成・栽培しています。オリーブの木は、豊島事件の調停が成立した2000年以降、平和を願う住民の手によって植樹された豊島のシンボルツリーです。瀬戸内オリーブ基金は2014年から住民の委託を受け、管理を行っています。株式会社島津製作所様よりご寄贈いただいた木炭を活用し栽培を継続しています。

搾油したオリーブオイルから食用オリーブオイル・洗顔石鹸・美容オイルなどを製造・販売し、豊島のお土産として観光客の皆さんにもご好評いただいております。

2022年の収穫量は2,190.5kg、搾油量は186.77kgとなりました。収穫期の10月上旬には30度を越す夏日が続いたため、高温を好まない果実の保管や搾油が大変難しい年になりましたが、今年も香川県の定めるオリーブオイル品質評価基準である「プレミアム」の評価を受けることができました。

○商品情報は以下QRコードから。

オンラインストア「瀬戸内豊島産 OLIVE オイルー瀬戸内オリーブ基金」



第 3 部 運営報告

1. 決算

■事業会計収支に関する事項

当期の経常収益は 41,646 千円、経常費用は 29,439 千円。経常費用の内訳は特定非営利活動にかかる事業の事業費が 20,622 千円、管理費が 8,817 千円でした。

当期経常増減額は 12,206 千円増、次期繰越正味財産額は 80,549 千円です。

■ご寄付と事業収益の状況

寄付金収入は 31,059 千円、受取助成金は 4,988 千円、事業収益は 5,440 千円でした。

2. 理事会・総会・運営委員会

2-1 理事会・総会開催状況

[2022 年度第 1 回理事会]

日時：2022 年 6 月 18 日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：2021 年度事業報告・収支報告審議、2022 年度事業計画・予算審議

[2022 年度総会]

日時：2022 年 6 月 18 日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：2021 年度事業報告・収支報告審議、2022 年度事業計画・予算審議

2-2 運営委員会開催状況

出席者：理事、監事、運営委員、企画委員

場所：梅田新道法律事務所

開催回	開催日	主な審議議題
第 1 回	2022 年 4 月 23 日	今年度計画及び業務分担／WEB サイト改定・他

第 2 回	2022 年 5 月 21 日	今年度計画及び予算／オリーブ商品販売状況報告・他
第 3 回	2022 年 6 月 18 日	事務局業務分担／就業規則改定／個人サポーター申込方法・他
第 4 回	2022 年 7 月 31 日	オリーブ栽培報告／WEB サイト更新／豊島事件継承事業報告・他
第 5 回	2022 年 8 月 28 日	2022 年度助成事業／ゆたかな海プロジェクト実施状況／事務局員応募・他
第 6 回	2022 年 9 月 25 日	オリーブ栽培報告／2022 年度助成事業／ゆたかな海プロジェクト実施状況・他
第 7 回	2022 年 10 月 15 日	オリーブ栽培報告／オリーブ助成・他
第 8 回	2022 年 11 月 12 日	オリーブ収穫報告／労働災害時の対応／アーカイブサイト・他
第 9 回	2022 年 12 月 17 日	助成決定団体報告／オリーブフォーラム／事務局員募集・他
第 10 回	2023 年 1 月 28 日	研修プログラム／個人サポーター制度・他
第 11 回	2023 年 2 月 18 日	YouTube 動画キャンペーン／展示会出展／次年度計画・他
第 12 回	2023 年 3 月 25 日	EARTH DAY 豊島／展示会出展／次年度プログラム・他

3. 運営委員・事務局紹介

3-1 運営委員紹介

役名	氏名	所属
理事（理事長）	岩城 裕	弁護士（大阪弁護士会所属）

理事（副理事長）	青木 智弘	ふれあい臨床検査センター（神奈川県茅ヶ崎市）
理事	安藤 忠雄	建築家（安藤忠雄建築研究所）
理事	中地 重晴	熊本学園大学社会福祉学部教授
監事	新田 幸弘	株式会社ファーストリテイリング
監事	藤田 恵介	公認会計士・税理士
運営委員	十河 完也	安藤忠雄建築研究所
運営委員	シェルバ 英子	株式会社ファーストリテイリング
運営委員	兼平 裕子	前愛媛大学法文学部教授・元税理士

3-2 事務局挨拶

○新任のご挨拶：塩川 ゆうり

2022年11月から瀬戸内オリーブ基金に入局し、豊島に移住しました。豊島事件の継承から海ごみ問題、オリーブ栽培など幅広く行うオリーブ基金の活動を皆様を知っていただくために努力していきたいと思います。今後も引き続きどうぞよろしく申し上げます。



4. ご寄付・ご支援のお願い

オリーブ基金の活動はみなさまからのご寄付・ご支援により運営されています。お寄せいただいたご支援は瀬戸内海の美しい自然を次の世代に引き継ぐために、責任をもって瀬戸内海エリアの環境保全に取り組む団体に支援するなど、未来につないでいく活動に活用します。

ご寄付、募金箱の設置、オリーブ製品のご購入などどのような形でも結構ですので、オリーブ基金の活動を支えていただければ幸甚に存じます。

個人サポーターのご案内

個人サポーター会員は、5,000 円／年を 1 口として、瀬戸内オリーブ基金を継続的にご支援いただくプログラムです。美しい自然環境を守り、再生する活動は地道で息の長い活動になります。

サポーター会費は、郵便振替、銀行振込、またはクレジットカードでお支払いいただけます。

法人サポーターのご案内

法人サポーターは、金銭面だけでなく、支援品や協賛企画によって瀬戸内オリーブ基金の活動をご支援いただくプログラムです。募金箱の設置や商品のご寄付等、様々な支援方法がございます。お気軽にお問い合わせください。

お振込みによるご寄付

振込先 ゆうちょ 銀行一六九（イチロクキュウ）店
当座 0068797 特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金

募金箱へのご寄付

現在、全国のユニクロとジーユーの 1200 店舗をはじめ、廃車王取扱店、サンキューマートなど多数の場所にオリーブ基金の募金箱を設置していただいております。広く多数の方にご支援いただくために、募金箱を設置していただける企業や店舗を募集しています。

SNS のご案内

各種 SNS で日々の活動を発信しております。ぜひフォロー・チャンネル登録をしていただき、最新情報をご確認ください。



○Facebook：「瀬戸内オリーブ基金ボランティア」

○Instagram：@olive_foundation

○Twitter：@oliveF_spoGOMI

○YouTube：@olive-foundation



特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金(認定)

761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦 3837-4

E-mail：info@olive-foundation.org 電話：0879-68-2911 FAX：0879-68-2912